

校長挨拶



喜びはともにあること

～よりよく生きる力をはぐくむ～

校門に咲き誇る桜をはじめ、チューリップやパンジーなどたくさんの花々が咲き、温かくさわやかな春の日差しが心地よい季節となりました。

今年度、校長として着任いたしました、池原幸代です。どうぞよろしくお願いいたします。

平成 23 年 4 月、地域とともに歩む【[喜びはともにあること](#)】を教育理念として、宇治市の市街地に開校してから、13 年目の春を迎えました。本校開校時に小学部 1 年生として入学した子ども達が、この 3 月に高等部を卒業しました。子ども達、また教職員も新しい学校への期待と不安の中、教育目標<[よりよく生きる力をはぐくむ](#)>を具現化した、遊び、学び、生活に基づく実践をすすめていく中で、自ら思いを伝え人と関わり、自然に友達のことを考え思いやる行動ができるようになり、本当に立派に成長し巣立っていきました。これまで見守ってくださり、御理解、御協力をいただいた全ての皆様に感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

本年度は、小学部 122 名、中学部 72 名、高等部 130 名 合わせて 324 名の児童生徒と 240 名の教職員でスタートします。全ての児童生徒が、地域社会に貢献し幸せに暮らすことができるよう、主体的で協働的な学びを実践する授業づくりと、市街地を生かした様々な地域資源と結びついた活動とおして、主体的に学び自分で考えて行動し、人や社会とつながることができる児童生徒の育成をめざしています。昨年度もコロナ禍でありましたが、様々な工夫を凝らして少しずつ教育活動を広げ、子ども達も前向きに日々の学習に取り組むことができました。教室不足に関わって昨年度末より図書室をエントランスに移動し、新しく「うじライブラリー」を設置してから、子ども達が積極的に活用し本に親しむ姿が多くみられました。今後保護者の皆様や地域の皆様にも利用していただけるようにすすめていきたいと思っております。

また令和 3 年度から 2 年間取り組んだ、文科省委託事業「ICT を活用した自立活動の効果的な指導の在り方調査研究の成果を地域の学校へ発信し、自立活動の指導の更なる充実に向けて実践をすすめていきたいと考えております。

時代の流れが早く、絶えず変化していく社会においても、何事にも前向きで柔軟に対応できる力がこれからは必要になってきます。付けた力を確かなものにしてそれを様々な場面で生かしていけるように、子ども達にしっかりと学びを届けられるよう、教職員一同で取り組んでまいりたいと思っております。

今後とも本校の教育に御理解と御支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。



京都府立宇治支援学校
校長 池原 幸代